

# 特別の教科 道徳

成田 翔

多様な価値観に触れながら自己を見つめることを通して、

「納得解」を基によりよい生き方を探究する学習

## I 研究の方向性

### 1 主題設定の理由

現実の生活の中には様々な価値観が混在しています。異なる生き方や考え方に柔軟に対応し、他者と関わり、よりよく問題に対処しながら生きていくためには、一人一人の価値観の違いを認め合いながら、互いに歩み寄ったり、いかに生きるべきかを自ら考え続けたりする姿勢が求められています。

令和3年度に実施された道徳教育実施状況調査（文部科学省）では、過半数の学校が道徳科の授業を実施する上で、以下の3つの指導方法に課題を感じていることが明らかとなりました。

- 話し合いや議論などを通じて、考えを深めるための指導
- 物事を多面的・多角的に考えるための指導
- 道徳的価値の理解を自分との関わりで深めるための指導

また、本校の道徳性の実態を見ると、全国平均より望ましい傾向にあります（令和4年4月実施の道徳性アセスメントHUMANの結果より）が、それが道徳的行為として現れているとは言い切れません。これらのことから、道徳教育の要である道徳科の学習を一層充実させ、児童がよりよい生き方を探究する必要があると考えました。

『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）では、以下のように述べています。

自らの人生や社会における答えが定まっていない問いを受け止め、多様な他者と議論を重ねて探究し、「納得解」（自分が納得でき周囲の納得も得られる解）を得るための資質・能力が求められる。そのような資質・能力の土台であり目標でもあるのが「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」であり、道徳性の育成はこのような観点からますます重要となっている。（下線は筆者）

以上のことから、研究主題を「多様な価値観に触れながら自己を見つめることを通して、『納得解』を基によりよい生き方を探究する学習」と設定しました。「多様な価値観に触れながら自己を見つめる」とは、話し合いや議論などを通じて、物事を多面的・多角的に考え、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めることです。「『納得解』を基によりよい生き方を探究する」とは、道徳的価値の理解を「頭で分かったこと」で留めるのではなく、自分事として受け止め、自分なりの結論（納得解）を導き出し、いかに生きるべきかを考えることです。

### 2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

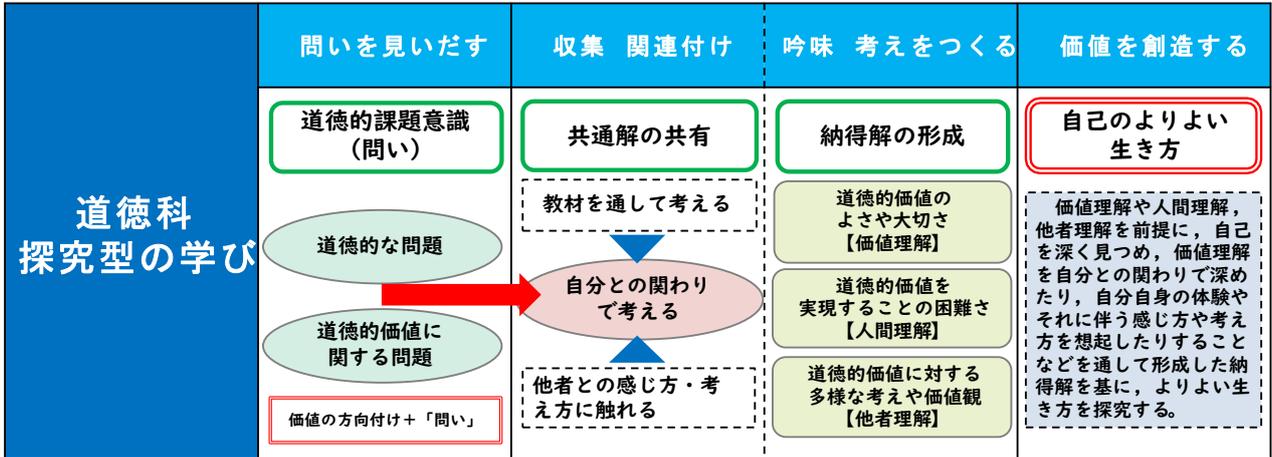
道徳科における「子供が創り出す『価値』」（目指す児童の姿）を以下のように押さえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	人としてよりよく生きる上で大切なものは何か、自分はどうのように生きるべきかなど、自分自身の行為・生き方の指針をもつ。
②人と関わり、協働して探究することの価値	他者のもつ道徳的価値観に触れることで、自らの道徳的価値の理解や自覚状況について再度問い直す。
③探究する中で得た内容知や方法知の価値	様々な事象を、道徳的諸価値についての理解を基に自分との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、よりよい生き方について考える。

## II 研究内容の具体

### 1 「探究型の学び」のイメージ

児童が「納得解」を基によりよい生き方を探究するためには、道徳的な問題を自分事として捉え、自ら「問い」を見だし、他者と関わることで更なる「問い」が生まれ、それらの「問い」と正面から向き合うことを通して考えを深め、自己の生き方を考えるという探究のプロセスが大切です。そこで、本校では道徳科における「探究型の学び」のイメージを以下のように押さえました。



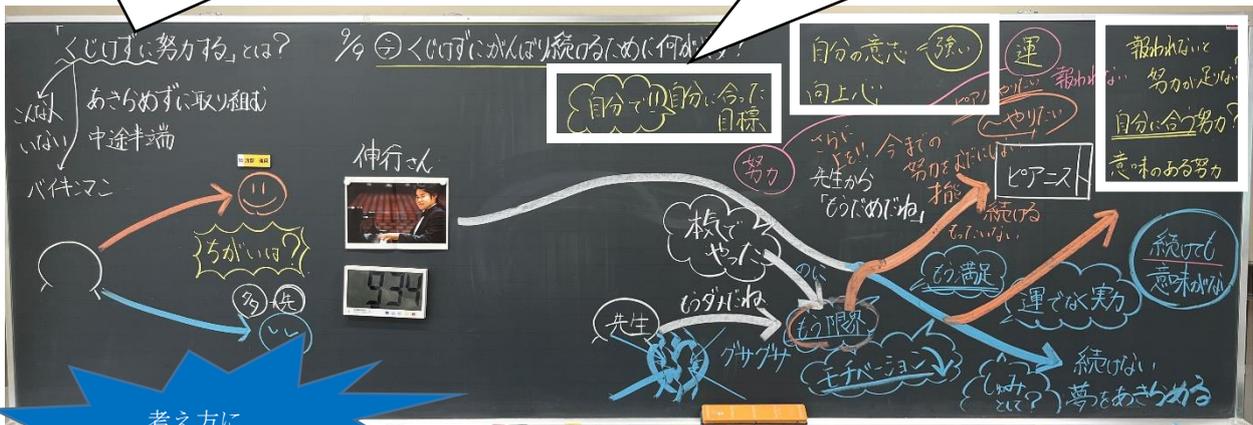
### 【実践例：6年「心をつなぐ音色」】

#### ①道徳的課題意識(問い)

- 「くじけずに努力する」とは？(価値を問う)  
→「あきらめずに取り組む。」「中途半端にしない。」「こんな人はいないんじゃないか。」
- 「みんなはどうか」を問う。(自分事として考える)  
→くじけずに努力できる：1人、できない：33人
- 考え方にズレが生じる(問い) ⇒ 学習課題の設定

#### ②共通解の共有

- 主人公の生き方に迫る  
→多面的・多角的に考えることを通して、価値観が多様であることや価値実現の難しさを理解する。
- テーマに対する共通解を共有する。  
→「自分に合った努力をする。」など(四角枠内)



考え方にズレが生じる。

自分事としての  
問い

#### ③納得解の形成⇒④自己のよりよい生き方

- 共通解を基にして、自己の価値観を形成し、これからのよりよい生き方を考える。以下、児童の振り返りより抜粋。

私は、「報われない努力は努力が足りない」というのが心に残っていて、努力をし続けるから報われるという意味だから、この言葉を聞くともっと努力して成長していきたいと思いました。また、今日の授業で「努力したかどうかは自分で決める」とありましたが、周りと比べることも大切だと思いました。周り比べることで、自分には足りない部分があるので大切だと思いました。

## 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

### ◆道徳科における「個別最適な学び」とは

道徳科における「個別最適な学び」とは、「自分自身の問題として受け止め（自分事として捉え）、他者の多様な感じ方や考え方に触れながら（多面的・多角的に考えながら）、自己の生き方について考えを深めていく」道徳科の学びそのものであると言えます。

そこで、本研究では道徳科における「個別最適な学び」を以下のように押さえました。

児童が、道徳的な問題や道徳的価値に関する問題を自分事として捉え、多面的・多角的に考えることを通して、「人としてよりよく生きる上で大切なものは何か」「自分はどのように生きるべきか」など、よりよい生き方を自ら問い続ける学び。

上記のような学びを実現するためには、児童自身が「問い」をもつことが大切です。そこで、児童が「問い」を見いだすための指導の工夫について研究を進めました。

### ○学習課題の設定につながる「問い」のつくり方～人間理解に着目して～

日常生活の中から「問い」をつくる

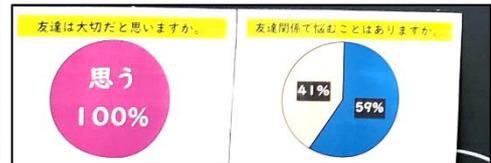
- ・児童が日常生活の中でも「問い」には以下の様相があり、「比較」を通して、「問い」を顕在化する。（人間の弱さ、価値実現の難しさ等を共有する。）

#### 児童が日常生活で「問い」をもつ様相

- ・理想と現実の比較
  - ・自分と他者の比較
  - ・実践「できるとき」と「できないとき」の比較
  - ・「思いや願い」と「自分の現状」の比較
- ※道徳的価値の実現を妨げる4つの条件を基にした。

#### 【実践例：6年「ばかじゃん！」】

◆事前アンケートから、理想と現実を比較する。  
⇒「友達は大切」ということは理解しているけれど、友達関係で悩むこともある。真の友情を築けているかどうかは分からない。（友情って何なんだろう。）



教材の中から「問い」をつくる

- ・教材を読んで感じたことを交流することを通して、本時で考えたいこと（テーマ）を設定する。

#### 【実践例：6年「うちら『ネコの手』ボランティア】

- 教材を読んだ感想を交流する。  
C1「せっかくボランティアしたのに怒られるのはきついよね。」  
C2「たしかに。自分だったら無理だ。」  
C1「C3はどう？」  
「ボランティア続けられる？」  
C3「いや…、どうだろう。」
- 上記のやりとりを全体で共有することで、全体の問いへとつなげる。  
→「嫌なことがあったら、ボランティアを続ける？ 続けない？」

- ・以下に示した視点を基に教材を事前に読み、疑問に思ったことや見いだした道徳的な問題などを、スプレッドシートに入力する。授業の導入で、互いの「問い」を共有しながら、道徳科の中で問うべき「問い」を学習テーマとして設定する。

【教材を読む視点】

普通は、バントをする場面で打って2塁打でもチームの決まりに反している賛否両論ありそうだから自分ならどうするかを話し合ってみたい

○読んで感じたこと 僕はルールを破ったことは、良くないと思うけどいい結果が出ているから一方的に責めるべきではないと思います。また自分自身がこんな場面に立ち会ったらルールを破ってまで打つことやしないと思います。ルールというより規則という言葉が気に入り規則は守らねばならないコトだから。  
○話し合ってみたくいこと 他の人から今回のように「しっかりバントを頼むよ」みたいに言われても自分を信じてルールを破るか破らないかどうか。今回のようなルールを破った時自分はどう思うか。

僕が、星野さんの立場だったら、「せっかくチームのために、2塁打を撃ったのに、怒られるなんて…もっと褒めてほしかったのにな〜」と思ってしまう

【スプレッドシートに入力された感想】





### 3 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

「自分が何を学んだのか、これからの生活にどのように生かすことができるのか」を自分の言葉でまとめる活動（振り返り）は、児童自身が納得解を導き出し、新たな価値を創り出すために欠かせないものだと考えます。そこで、授業の終末では、右図の視点を基にした振り返りの時間を設定しました。

視点	ポイント
①考えたこと (自分の経験などを基に)	私は、……のように考えました。また友達は……と考えていました。このようなことから、私は……だと思いました。～の意見で、私の考え方が……のように（変わった・広がった・深まった）。など
②「発見したこと」や「納得したこと」 (その理由も)	新たに分かったことや、いろいろな考えの中で（自分なりに）納得したことなど。（理由も）
③これからのこと	①、②をふまえて、「これからどのように生きていきたいか」、「何を大切に生きていきたいか」など

#### 【実践例：6年「言葉のおくりもの」】

①考えたこと  
(自分の経験などを基に)

②「発見したこと」や「納得したこと」

③これからのこと

くどうしたら異性と仲良くできる？  
・男子だから～、女子だから～な  
どという差別をしない。  
く振り返り  
今日の授業で、私は異性と仲良くするには男子だから～などという差別をしなければいいと思いました。なぜなら、そのような差別をしてしま、たら、男子と女子との間になんとも関わらずらいう空気にな、てしま、うから、です。  
また、今日の授業内に出た○○さんや○○くんの「男子、女子ではなく1人の人間として関わる」という意見に納得しました。周りが男子と女子が仲良くしているように見えるからからかたりするけど、同性同士が仲良くしていたらからからかう人はいないから、周りが1人の人間と1人の人間が仲良くしていると捉えれば「からかい」はなくなると思、

#### 《発達段階や児童の実態に応じた振り返りの工夫例》

発達段階や児童の実態によっては、短時間で3つの視点全てを振り返ることが難しいこともあります。その場合は、以下の手立てを講じます。

##### ○視点の焦点化

- ・(黒板を使って) 納得のいく意見や考えに挙手するなどして、自分の納得解をもったうえで、「これからの生活にどのように生かしていきたいか」について、授業の振り返りを記述する。
- ・右図のようなワークシートを使って、記述する。  
⇒「これからのこと」は必ず記入する。  
⇒他3つの視点は、書けるものを選択し記入する。  
(キーワードでも可)  
など

友達の考えを聞いて「いいな」と思ったこと	
新しく分かったこと	
納得したこと	
これからのこと	

# 6年生実践 『自分の心と向き合う』 A 正直, 誠実

## 【実践のテーマ】

登場人物の心の葛藤や動きについて考えることを通して、

誠実に明るい心で生活しようとする態度を育てる学習

## 1 研究授業のねらい

本主題は、学習指導要領特別の教科 道徳編の第5学年及び第6学年における内容項目「A 主として自分自身に関すること」の「(2) 誠実に、明るい心で生活すること」に関わるものです。

高学年においては、自分自身に対する誠実さが一層求められます。誠実とは、私利私欲を交えずに真心をもって人や物事に対することです。自信をもって、自分らしく明るく生きるためには、自分自身に対して誠実であり続けることが大切です。しかし、時には迷うことや悩むこともたくさんあります。相手のことや自分自身のこと、多様な価値観があるからこそ迷う場面が出てきます。さらに、それらの価値観に対して、真剣に向き合っているからこそ、迷いがより深くなることもあります。しかし、その迷いこそが「誠実」であり、そこで見つけた自分自身の心の在り方こそが誠実な答えなのではないかと考えます。

そこで、本実践では、「誠実」とは何かを考え、自分の心と真剣に向き合い、誠実な心の在り方を追求していくことが大切であると考えました。登場人物の心の葛藤や動きについて考えることを通して、誠実に明るい心で生活しようとする態度を養うことをねらいました。

## 2 教材分析シートと構想図

**教材分析シート**

主観名	自分の心と向き合う	内容項目	正直, 誠実
教材名	手品師		
内容項目について	誠実に行動するためには、自己の道徳を認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切です。過ちや失敗は誰にでも起こり得ることで、その時にうそを言ったり、ごまかしをしたりすることがあります。このことによって、他者の信頼を失うばかりか自分自身の中に後悔や自棄の念、強い良心の呵責等が生じます。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、悔い悔いと向き合おうとする心の清やしい明るさでもあります。このような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが道徳となります。指導に当たっては、特に自分自身に対する誠実さの発露について考えさせます。自分自身に誠実にすることが明るい心で生活することにつながり、結果として周囲に対する誠実さを促すこととなります。より明るい心で行動し、真面目さを前向きに受け止めた生活を心掛けることで自己を向上させることや自信につながっていくことについても指導することが大切です。		

**【構図】**

教材の内容と道徳的価値の理解

価値理解	人間理解	他者理解
相手に対する誠実さとともに、自分自身に対する誠実さも大切。自分自身の心と向き合い、自分に正直に真面目に生きていくことが大切。	AかB, どちらを選んでも誠実な行為である場合、どちらを選択すべきか迷う。	AかB, どちらを選択するのは人によって異なり、そのときの考え方は様々である。
「男の子との約束を守る」と「大劇場に出ること」, どちらを選択するかで悩み、悩んだ結果、「男の子との約束を守る」を選択する場面。	大劇場には行かずに、男の子のところへ行くことと判断した場面。	約束を守るために男の子のところへ行くことと自分の夢を叶えるために大劇場に行くこと、どちらが誠実な行為なのか、誠実とは何かを、手品師の心の葛藤を見つめることを通して考える。

**手品師「自分の心と向き合う」～正直, 誠実A～(2) 構想図**

【教師の関わり】

- 「明るく学校生活を送る」ように、いつも態度に協力して活動するように促す。
- 「自分の役割を果たそう」と、真直に行動している児童を表彰し、フィードバックをする。
- 「児童の活動の様子を把握し、適宜面談を行う」。
- 「事前指導で、最高学年としての誇らしい姿について、全員で共有する」。
- 「手品師の葛藤や決断について話し合う」ことを通して、自分の心の中にある誠実さを認めながら、他者だけでなく自分に対して誠実な行動をしようとするための決断を支援できるように指導する。
- 「自分自身に誠実である」として、誠実な心をもって行動することが、自分に誇りを持ち、周囲の人々への自信につながるものであることに気付かせるために、他者評価を取り入れたフィードバックを行う。

【児童の活動】

- 【日常生活】
  - 自分の正直との関わり方を振り返り、誇らしい行動の仕方について考える。
  - 約束を守って行動する。
  - 給食や清掃時間等で、自分に与えられた役割を真面目に果たす。
  - 【係活動】
    - 与えられた役割を真面目に果たしながら、友達と協力して取り組む。
  - 【12人組集会】
    - グループ内のリーダーとしての自覚を持ち、役割を果たそうと真面目に取り組む。
    - 【特別活動(友の会)】
      - 各委員会のリーダーとして、仲間と力を合わせ、助け合いながら運営していく。
      - 【クラブ活動(運動系)】
        - ルールや約束を守って活動を楽しむ。また、リーダーとして責任のある行動を取る。
- 【道徳の時間】「自分の心と向き合う」A～(2)
  - 教材名「手品師」(東京書籍)
  - ねらい
    - 手品師の「自分の夢を叶えたい」という気持ち、「男の子との約束を守りたい」という気持ち、どちらも自分の気持ちに負けないというあり、これらの手品師の心の動きについて話し合う学習を通して、「誠実」な生き方について考え、誠実に明るい心で生活しようとする態度を育てる。
  - 【12人組活動(書を楽しむ集会)】
    - 獲得動意のみで判断したり、自分の意に任せて周囲に合わせたりすることなく、自分に与えられた役割を果たそうと真面目に取り組む。
    - 【チャレンジ(総合)】
      - 「キャリア」
        - 自分の将来の目標に向かって、自分自身の心と向き合い、何をすべきかを考え、誠実に取り組む。
    - 【学校行事】
      - 【学習発表会】
        - 自分の仕事に責任をもち、前向きに明るくやりがいを感じながら取り組む。

児童の葛藤

  - 6年生として下級生の手品となる行動をしなければ。
  - 何事に対しても真面目に取り組まないといけない。
  - やるべきことが増えすぎて大変だぞと、約束を守らないといけない。
  - 友達と協力して活動を進めていく。
  - 友達の意見を尊重しながら、活動を進めていく。
  - 仲間と助け合いながら、6年生としての役割を真面目に果たそう。

【何かが葛藤を迫られる場面に遭遇したとき、どんな心で大切に決断したらいいのかな】

  - 誠実とは何だろう。
  - 誠実に通じたら、どんないいことがあるのだろうか。

【大気なときもあるけど、下級生の友になれよう、やりがいをもって取り組もう】

  - 誰かに任せられては、自分の意志を大切に、自分のすべきことを真面目に取り組もう。

【真直に取り組んだことで、下級生や先生方が褒められた。役立ちたことができたな】

### 3 本時の学習

#### (1) ねらい

手品師の「自分の夢を叶えたいという気持ち」、「男の子との約束を守りたいという気持ち」、どちらも自分の気持ちに偽りのない心であり、これらの手品師の心の動きについて話し合う学習を通して、「誠実」な生き方について考え、誠実に明るい心で生活しようとする態度を育てる。

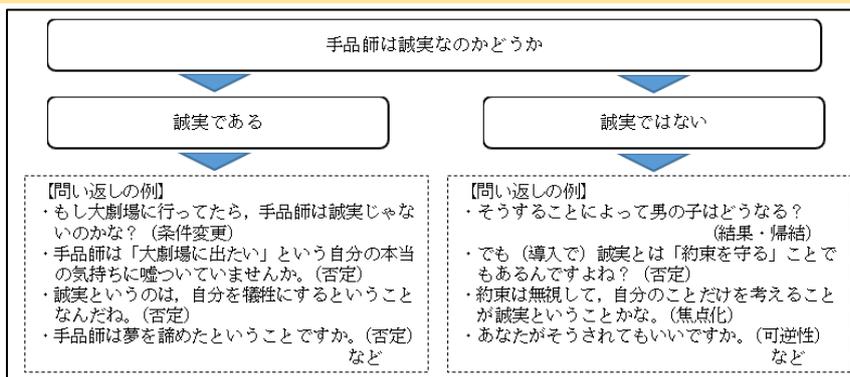
#### (2) 展開

過程	児童の活動	教師の働き掛け・留意点等			
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『『誠実』とは何か』を問う。 ・約束を守る人、真面目な人、嘘をつかない人等</li> <li>○教材を読んで、感じたことを交流し、学習テーマを設定する。 ・自分の夢を諦めてまで、男の子の所に行った手品師はすごい。 ・男の子のために、自分の夢を諦められるのか。 ・手品師は男の子との約束を守ったから誠実な人だと思う。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○辞書で「誠実」の意味を確認する。</li> <li>○どの考えも共感的に受け止め、問い返しをしながら、学習テーマへとつなぐ <b>研究視点2</b></li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>【学習テーマの例】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ手品師は、男の子との約束を守ることを選んだのだろう。</li> <li>・夢を諦めて、手品師は後悔していないのかな。 など</li> </ul> </div>			
展開前段 (20分)	(男の子との約束を守った) 手品師は誠実なのかどうか。				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○手品師が誠実であるかどうかを話し合う。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">誠実である</th> <th style="width: 50%;">誠実ではない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を守ったから。</li> <li>・男の子の思いに寄り添っているから。</li> <li>・男の子に対して嘘をつかなかったから。 など</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を守ったのはすごいけど、自分の夢を諦めるのはどうかなと思う。</li> <li>・自分の夢をそんな簡単に諦めていいのかな。 など</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	誠実である	誠実ではない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を守ったから。</li> <li>・男の子の思いに寄り添っているから。</li> <li>・男の子に対して嘘をつかなかったから。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を守ったのはすごいけど、自分の夢を諦めるのはどうかなと思う。</li> <li>・自分の夢をそんな簡単に諦めていいのかな。 など</li> </ul>
誠実である	誠実ではない				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を守ったから。</li> <li>・男の子の思いに寄り添っているから。</li> <li>・男の子に対して嘘をつかなかったから。 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子との約束を守ったのはすごいけど、自分の夢を諦めるのはどうかなと思う。</li> <li>・自分の夢をそんな簡単に諦めていいのかな。 など</li> </ul>				
展開後段 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎手品師はどのような生き方を大切にしていたのかを考える。</li> <li>・嘘をついたり、ごまかしたりしないで、正直に生きること。</li> <li>・自分の心と真剣に向き合って、本当にやりたいことを見付けること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎手品師は、どのような生き方を大切にしているのでしょうか。 <b>価値理解</b></li> <li>・個人で考えた後、「グループ交流⇒全体交流」のように進める。</li> <li>・導入場面に立ち返り、「誠実とは何か」に対する理解が深まったことを実感させる。</li> </ul>			
終末 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇授業を振り返り、考えたことやこれから自分が意識していくことを考える。</li> <li>・周りの人のことを思いやることも大切だけど、自分自身も納得できる行動であるか考えることが大切だと思った。これからは、～。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇「今日の授業を通して、考えたことやこれから自分が意識していきたいことなどをノートに書きましょう。」 <b>研究視点3</b></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価場面②（ノート記述） 自分自身との関わりの中で、考えを深めているか。</p> </div>			

## 4 授業の実際

### 児童の発言に対する「問い返し」の工夫（多面的・多角的に考えるための手立て）

児童が物事を多面的・多角的に考えるには、教師が児童の発言に対して適切に「問い返し」を行い、議論を発展させていく必要があると考えました。そこで、本時の授業を構想するにあたって、事前に児童の発言に対する問い返しを想定しました。実際の授業では、教材を読んだ後に感想を交流する中で、「もし自分が手品師だったら、大劇場と男の子、どちらを選ぶか。」という問いが生まれました。児童がそれぞれの立場で意見を述べ合った後、「男の子を選んだ手品師は誠実なのか。」と発問をしました。すると、ある児童は「男の子を選んだ手品師はいいと思う。男の子を裏切っちゃったら後でモヤモヤしそうだから。」と発言しました。それに対して、「なるほど。ということは、〇〇さんだったら、大劇場に出たいという気持ちに嘘をつくということ？」と問い返すと、「そういうことじゃない！」「ちょっとちがう！」と多くの児童が一気に反応を示しました。そこでさらに「手品師は夢を諦めたということだね？」と問い返すと、「あきらめたわけじゃない！」「違うんですよ！そもそも手品師が『なんで大劇場に出たいか』ということなんですよ！！」など、周りの児童が反論を示しました。詳しく話を聞くと、A児が「夢を諦めたわけじゃなくて、今は男の子に手品を見せてあげたいという気持ちの方が強いからだと思う。」と発言をしました。これは誠実の対象が男の子から、本時のねらいである「自分」へと向いた瞬間でした。この発言をしたA児の振り返りには、「最後までしっかり悩んで自分が後悔しないようにしたい。」と、自分自身に対して誠実でありたいという思いが記述されていました。



【事前に想定した問い返し】

「男の子」を選んだ手品師は、誠実なのか。

男の子を選んだ手品師はいいと思う。男の子を裏切っちゃったら後でモヤモヤしそうだから。

なるほど。ということは、「〇〇さんだったら、大劇場に出たいという気持ちに嘘をつくということ？」（否定）

「手品師は夢を諦めたということ？」（否定）

あきらめたわけじゃない！！

違うんですよ！そもそも手品師が『なんで大劇場に出たいか』ということなんですよ！！

（例）嘘をつかれても悔しくないか？ 自分からきいた価値観を否定し、聞き取る方法。（非認知）

【授業の流れの一部】

した。そこで改めて「誠実な人」というのを考えてみると、しかし、かりと考えることや他の人の気持ちを大切にすることが大切だと思いました。実際に私は中学校の進路で悩んでいるけれど、親に自分の意志を伝えて最後までし、かり悩んで自分が後悔しないようにしたいです

【A児の振り返り（ノート記述）】

「最後までしっかり悩んで自分が後悔しないようにしたい。」と、自分自身に対して誠実でありたいという思いが記述されていました。

このように児童の発言に対して教師が適宜問い返す中で、他者の考えや価値観に触れ、多面的・多角的に考えたり、議論したりすることを通して、自分自身の道徳的価値理解や自覚状況について問い直す姿が見られました。

### 子供が新たな価値を創り出すための振り返りの工夫

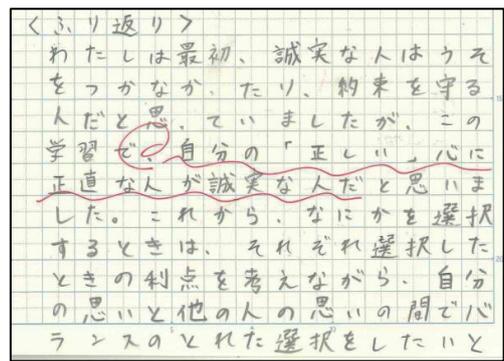
本時の終末では、右図の視点でノートに振り返りを書く時間を設定しました。授業を通して、児童自身が導き出した納得解を基にしながら、「何を学んだのか、これからどのように生きていきたいか、何を大切に生きていきたいか」など、自分の言葉でまとめる活動を確保することで、自己を深く見つめ直し、よりよい生き方を考えることをねらいました。

視点	ポイント
①考えたこと （自分の経験などを基に）	私は、……のように考えました。また友達には……と考えていました。このようなことから、私は……だと思いました。～の意見で、私の考え方が……のように（変わった・広がった・深まった）。など
②「発見したこと」や 「納得したこと」（その理由も）	新たに分かったことや、いろいろな考えの中で（自分なりに）納得したことなど。（理由も）
③これからのこと	①、②をふまえて、「これからどのように生きていきたいか」、「何を大切に生きていきたいか」など

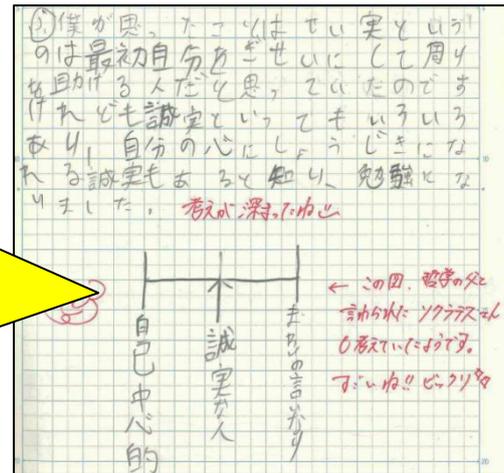
B児は、「誠実な人はうそをつかなかつたり、約束を守ったりする人だと思っていたが、この学習で、自分の『正しい心』に正直な人が誠実な人だと思いました。」と考えを深めたことで、「何かを選択するとき、それぞれ選択したときの利点を考えながら、自分の思いと他の人の思いの間でバランスのとれた選択をしていきたい。」と、自分なりのよりよい生き方について考える姿が見られました。

また、C児は「誠実というのは最初自分を犠牲にして周りを助ける人だと思っていたが、誠実といってもいろいろあり、自分の心に正直になれる誠実もあると知り、勉強になりました。」と、考えの変容を自分自身で自覚している様子が分かります。さらに、文章記述の下に、「誠実な人は自己中心的と周りの言いなりの中間にいる」ことを図で表現していました。これは、中学校の「自主・自律、自由と責任」の内容まで迫っていることが分かります。

このように、学んだことやこれからの生き方についてまとめる活動を確保することで、考えをより深めたり、よりよい生き方について熟考したりする姿が見られました。



【B児の振り返り(ノート記述)】



【C児の振り返り(ノート記述)】

【中学校 A 自主、自律、自由と責任】

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。したがって、**深く考えずに付和雷同したり、責任を他人に転嫁したりするのではなく**、自らの規範意識を高め、自らを律することができなければならない。どのような小さな行為でも、それは自分で考え、**自分の意志で決定したものであるとの自覚に至れば、人間はそれに対して責任をもつようになり、生涯において何かをなすときも、それを誠実に実行するようになる。**

## IV 1年次研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- 児童の発言に対して適宜問い返すことで、議論が発展し、多面的・多角的に考える児童の姿を引き出すことができました。
- 児童が多面的・多角的に考えることで、道徳的価値の理解が深まり、児童自身が考えの変容実感することにつながりました。
- 振り返りの視点を基に学習を振り返ることで、児童が自身の学びを自覚しながら、考えを深めたり、よりよい生き方について考えたりすることにつながりました。

### 2 今後の課題

- 教師の問い返しだけでなく、児童同士で問い返しをしながら道徳的価値の理解を深めていくような、道徳科における探究の在り方を考えていく必要があります。
- 自己の生き方について、更に考えを深めるために、児童の振り返りを交流できるよう、1単位時間のタイムマネジメントを改善する必要があります。

## V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編 文部科学省 平成29年6月
- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)  
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議 平成28年7月22日
- 問いで紡ぐ 小学校道徳科授業づくり 田沼茂紀 東洋館出版社 令和2年7月
- 価値観を広げる道徳授業づくり 教材の価値分析で発問力を高める  
高宮正貴 北大路書房 令和4年2月
- 主体性を育む学びの型 自己調整、探究のスキルを高めるプロセス  
木村明憲 株式会社さくら社 令和4年6月